

伝える絆を創造する



Smartavatar®

有限会社BONDは、言語から人の感情を類型するデータベースを開発し、テキストや音声が入力されると、キャラクター（スマートアバター®）が自動で表情や仕草をつけながら発話する動画作成システム・音声通話システム・配信システムを開発しました。

誰でも、スマートアバター®がキャスター役を務める動画をパソコンやスマートフォンなどモバイル端末を利用し、簡単に・早く・何度でも作成でき、複数端末に同時配信できます。

展示会での演出・売り場のPOP・動画サイトでのPR・リアルタイムニュース配信・教育・災害時の情報提供など、SNS・デジタルサイネージ・AR技術との連携など、多様なコミュニケーションシーンに利用できます。（発声・文字表示は多言語対応）今年、東アジア文化都市2015新潟市実行委員会が広報ツールとして導入され、公的機関の初事例が生まれました。

今後は地方創生の一翼を担うだけでなく、オリンピック・パラリンピック東京大会のおもてなしのスマートアバター®として世界中に愛されるツールとなるよう、皆様のご声援をいただきながら国内を代表する企業に成長していく所存です。今後も女性ならではの感性（心）に拘り「伝える絆を創造」して参ります。

<受賞暦>

2013年 第13回MIT-VFJ優秀賞受賞

2014年 キャロラインケネディ駐日大使表彰

2014年 第3回DBJ女性新ビジネスプランコンペティションファイナリスト



新潟市Smartavatar「花野古町」
※番組制作ツール使用例



ネットTVによる番組配信例
※番組作成ツール+ネットTV
配信ツール使用

簡単動画作成・配信・音声通話で地域コミュニケーション革命

～自治体の広告宣伝費大幅低減から住民自身による地域情報発信へ～



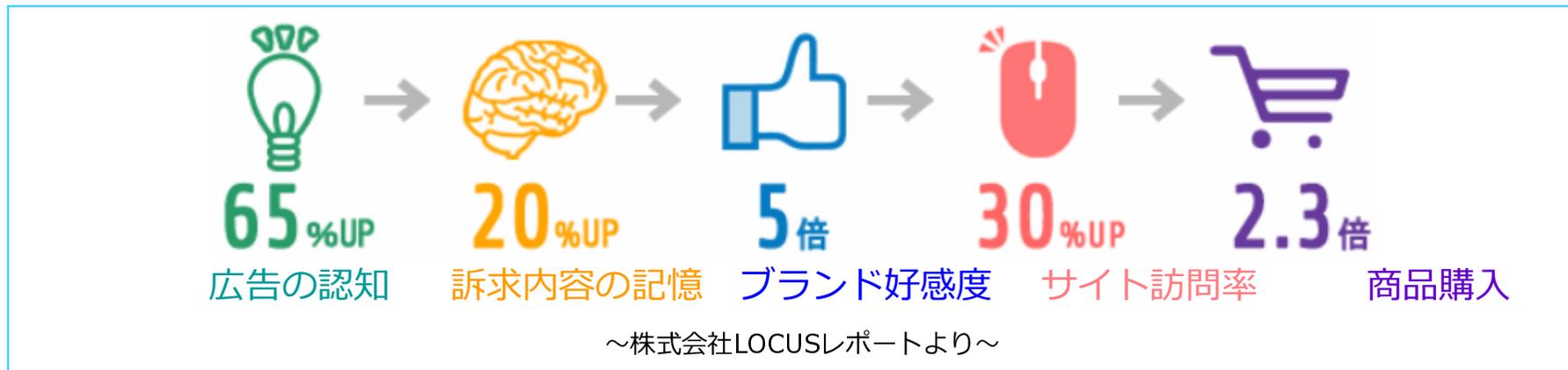
新潟市Smartavatar® 「花野古町・笹団五郎」

ベンチャーと自治体で起こすオープンイノベーション
～自治体×ベンチャーマッチングイベント～

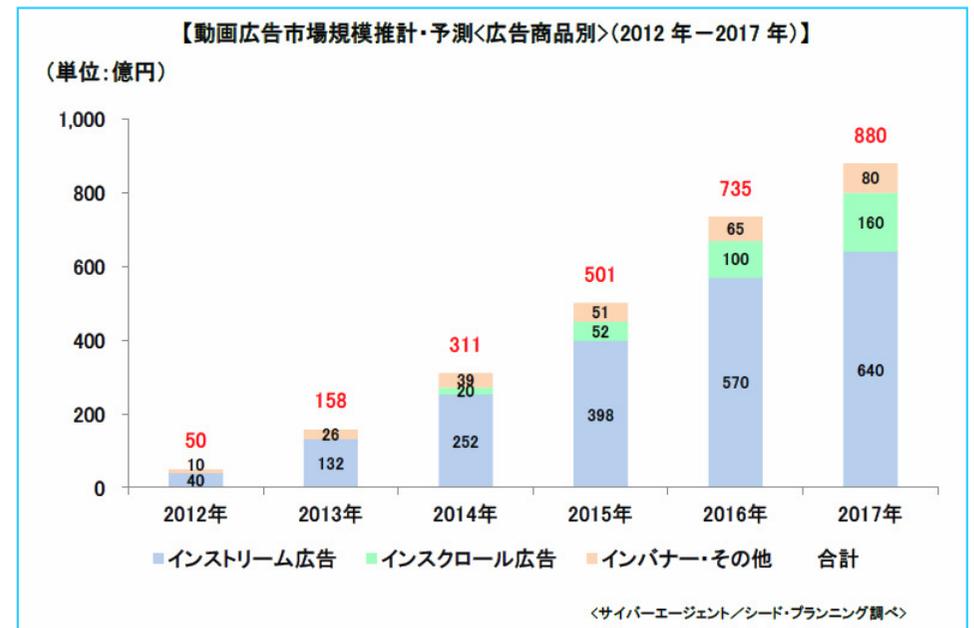
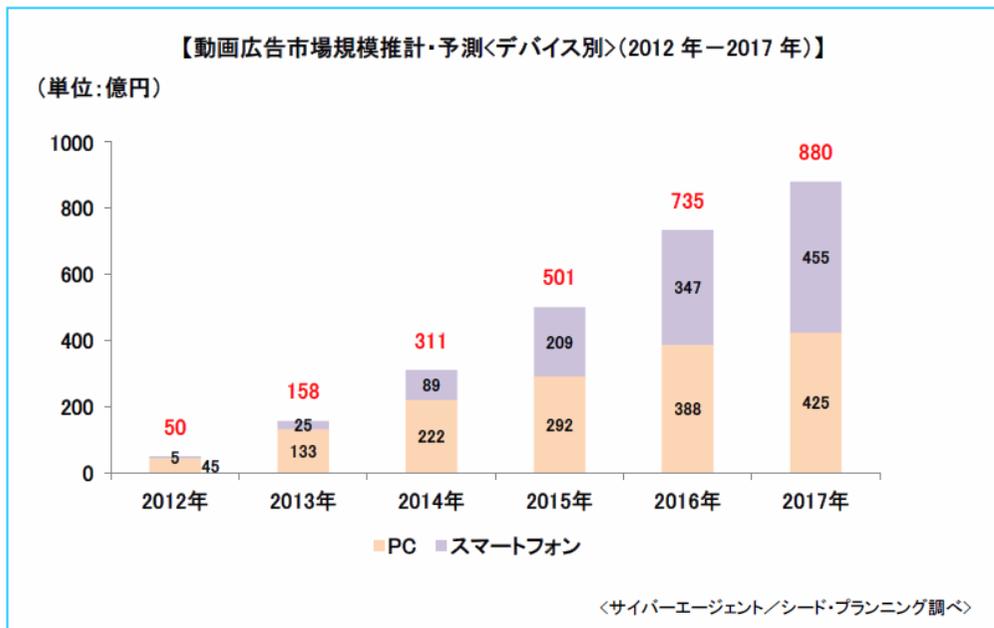
伝える絆を創造する

BOND

動画は、販促効果や情報発信力が高いにも関わらず
専門的知識を必要とし、時間と費用がかかる（専門家の独占市場）



インターネット環境・デバイスの発達・若者のテレビ離れ
今後、ICT技術と連携した動画広告が一般的になる



ICT技術+人の心（感情）に拘る

Smartavatar®が自動で表情や仕草をつけながら発声
（人口知能）

番組生成



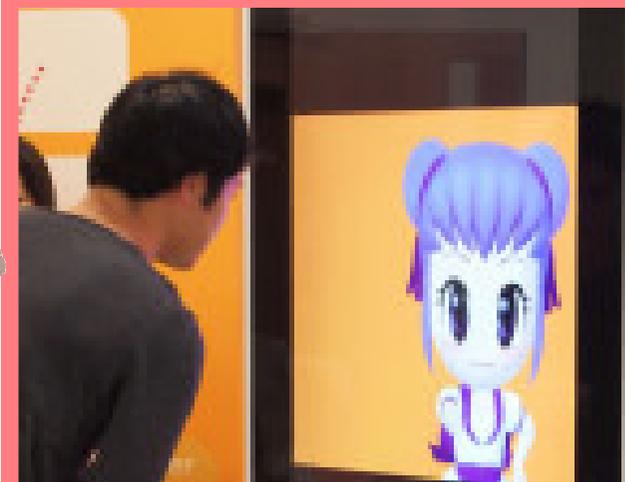
テキストや音声を入力するだけで、Smartavatarがキャスター役を務める番組が簡単に生成される。

ネットTV配信



言語とSmartavatarが同期し、表情や仕草をつけながらインタラクティブなコミュニケーションを実現する。

音声通話

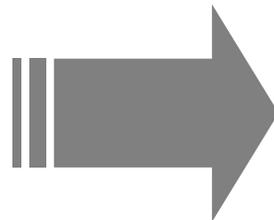


ブラウザ管理画面から各種番組を管理・配信（割込み配信含）でき、インターネットを利用した視聴を可能にする。

誰でも簡単に・早く・何度でも「制作・配信・対話」

自ら「伝える」多様なシーンを創造 情報周知の多様な問題を解決！

- 番組を簡単に量産
- 配信を自由自在管理
- 双方向音声通話
- まち・ひと・雇用の強み
- 弱者にも優しく
- 訪日外国人の「おもてなし」
- 災害・緊急時の備え



①番組生成

緊急時もダイレクトに複数多端末同時配信

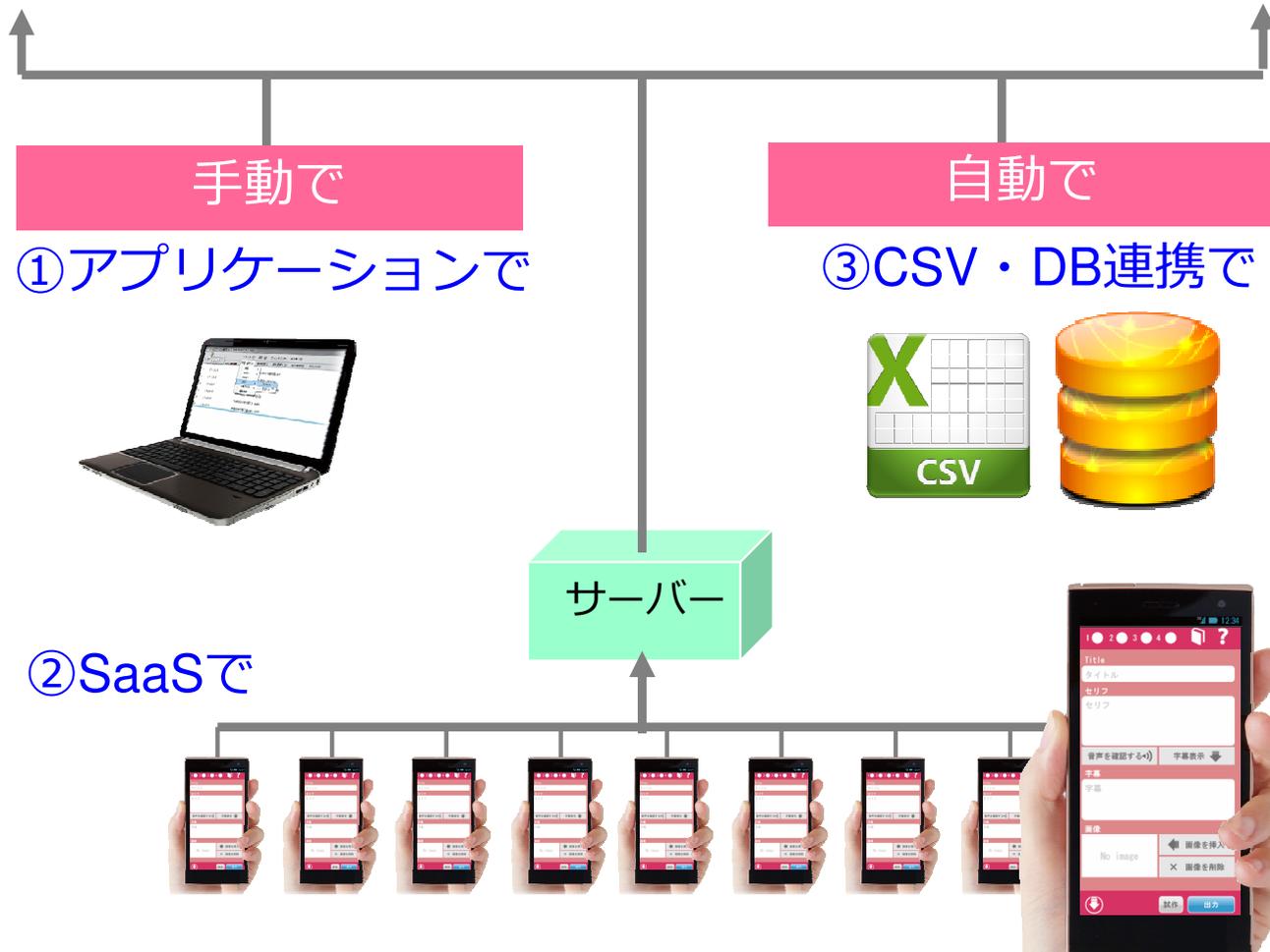
番組を、簡単に・早く・何度でも

DS・TV・HP・WEB・SNS・・・

タクシー・バス等の移動体

モバイル端末・・・

多様な連携



②音声通話システム

ローカルでも、ネットワークでも

スマートアバターで対話が弾む

DS・受付・イベント・・・

タクシー・バス等の移動体・・・

モバイル端末・・・

多様な連携

手動で

①コールセンターで



自動で

③CSV・DB連携で



番組生成

動画配信



切り替え



音声通話

登場中のアバターが会話を担当



誰もが「番組制作+独自のネットTV局」を自由自在に運用

①番組生成



拡張表示リンク



③ネットTV局で配信

チャンネル管理・配信（事故・災害時など割込み）自由自在



②音声通話



PC

スマートフォン

タブレット

デジタルサイネージ

機器組み込み

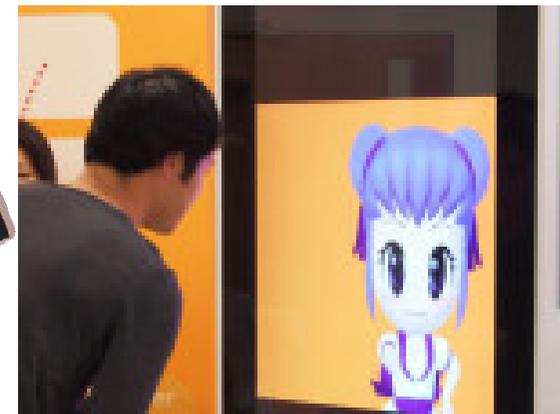
多様なシーンに活用

専門家による番組制作 VS Smartavatar Creator

	専門家に依頼	Smartavatar Creator
機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家依頼によるオーダーシステム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字や音声の入力で、キャラクターが自動で表情や仕草をつけて解説する動画が出力される
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術性が高い動画 ・ 時間と費用がかかる <ul style="list-style-type: none"> － 制作の工程に多くの専門家が関わる － 臨機に動画作成することからほど遠い － 修正や変更は容易にできない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な簡易動画 ・ 誰でも簡単に・早く・何度でも作成できる <ul style="list-style-type: none"> － 専門知識不要 － 番組制作に必要な素材と連携 － 修正や変更も容易
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作工程などを専門家にゆだねるため何度も打ち合わせが必要 ・ 多様な利用は制作側の許可がいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何本でも動画を自ら作成可能 ・ 利用者自ら色々な動画によるコミュニケーションシーンに利用できる。
価格	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高額（15秒程度でも100万円～） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期導入費60万円～120万円 年保守36万円～ ・ ロイヤリティ
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配信は特定媒体のみ ・ 動画データの容量が重い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発声や文字表示は多言語に対応 ・ PCに軽いデータで配信し複数同時再生可能。 ・ CSVなどDB連携により、テキストや画像情報を自動で番組生成・発信ができる。 ・ BOND製品と連携し双方向音声通話も可能。 ・ 簡単に動画を発信し合え用途が無限大になる。

さらに、Smartavatarで何ができるか？

Smartavatar	
<p>インタラクティブなコンテンツ生成・連携 (利用者の動態把握に合わせて・訴求力のある情報提供)</p>	
<p>モバイル連携</p>	
<p>リアルタイム配信 (ダイレクト描画・災害情報対応)</p>	
<p>多言語対応 日本語・英語（アメリカ）・英語（イギリス） ・中国語・韓国語・スペイン語（アメリカ）・フランス語（カナダ） ※今後の予定：台湾語・広東語・タイ語</p>	



計675.4億円の経済効果が、投資額260万円で可能

① 広告宣伝費節約効果

広告宣伝費の直接節約効果

5億円

② 商品売上直接・間接効果

広告宣伝による商品売上、これに伴う地元企業の生産や売り上げ増加による経済効果

665億円

③ 観光客直接・間接効果

観光客増加効果による売上効果、これに伴う地元企業の生産や売り上げ増加による経済効果

5.4億円

<BOND調べ試算レポート>



活用イメージ

- ・ ホームページで
- ・ SNSで
- ・ デジタルサイネージで
- ・ 受付対応で
- ・ TVで

▼配信例

今！注目の情報

取材レポート

募集情報

事業、イベント予告

番組内でTVCM動画の配信

特設サイトへアーカイブ

過去の番組も閲覧可能



主な受賞暦

- ・ 2013年11月 米国MIT日本支部NPO法人主催
MIT-BPCC2013 (現、MIT-VFJ) <http://mit-vf.jp/> 優秀賞 (1位)
- ・ 2014年1月 米国大使館 ケネディ駐日大使より表彰
- ・ 2014年6月 日本政策投資銀行主催
第3回DBJ女性新ビジネスプランニングコンペティションファイナリスト



- 「画期性」 専門家に依頼しなくとも、パソコンにセリフを入力するだけでキャラクターが解説役を務める動画があつという間に作成できる。
- 「拡張性」 簡単にネット上に動画を発信し合え、用途が無敵大になる。
- 「社会性」 コミュニケーションの弱者が伝達力を補い得る。

市場にインパクトを与えられる専門ブレンとアライアンスを組み
利用者の利用データをサーバーに蓄積すれば、世界のコミュニケーション情報を
日本で蓄積、あらゆる用途に利用が可能になる。

キャラクターによる動画コミュニケーションの世界を開く、画期的発明！
 テキストや音声入力で、スマートアバターが表情や仕草をつけながら自動で演出！（特許）



※スマートアバター(登録商標第5384702号)は、(有)BONDの登録商標です。

- 2014 日経産業新聞掲載(8月21日)
「番組作り、アバターで演出。ネット講義では先生役」 [詳細](#)
- 2014 日経産業新聞掲載(8月5日)
「データ解析者を養成、アバターがMOOC授業(ISIT)」 [詳細](#)
- 2014 ヒューマンメディア財団情報誌[ヒューディア]掲載 [詳細](#)
- 2014 第3回DBJ女性新ビジネスプランニングコンテスト(ファイナリスト) [詳細](#)
- 2014 東方通信社 月間『コロンブス』5月号掲載 [詳細](#)

【納入実績】

アサヒビール株式会社様が弊社システム(スマートアバターシリーズ)をご導入頂きました。詳細は [こちらから](#)

「スマートアバター(商標)」は、動画制作のコストダウンだけでなくアバターが人に代わって生活を支援したり、世の中の意思疎通に関わる問題を解決します。

コミュニケーションが苦手な人、コミュニケーションをしたくても体にハンディがある人でも、スマートアバターの動画を使って、表情や仕草をつけながら自由にコミュニケーションできる時代を作ります。

BONDでは、誰もが簡単に、スマートアバターがキャスター役を務める動画をあっという間に作れる「クリエイター」、複数端末に配信、音声通話ができるシステム「アクション」を開発し、色々なコミュニケーションシーンに利用できる汎用性の高い製品を提供しています。アニメ大国日本、BONDがコミュニケーションの新時代を切り開き、動画コミュニケーションによる人と人との絆を創造します。

[YouTubeでの視聴はこちらから](#)

簡単番組作成(アプリケーション版)	音声合成:日本語+英語版	:2週間試用	詳細
簡単番組作成(アプリケーション版)	音声合成:日本語版	:2週間試用	
簡単番組作成(ブラウザ型・機能簡易版)	音声合成:日本語版	:2週間試用	詳細
音声通話システム(ローカル版)		:2週間試用	
音声通話システム(ローカル・機能限定版)サポート無		無料	



ご清聴ありがとうございます。

<http://f-bond.co.jp>

power@f-bond.co.jp

かわいらしいアバターが感情豊かに、身ぶり手ぶりを交えて工場の案内や大学の講義をする。せりふを入力するだけで感情を表現する「スマートアバタークリエイター」を開発したのがBOND(北九州市)だ。印刷会社の3代目社長、古川ひろ美氏(64)が第2の創業に走り出した。

アサヒビールのホームページの「工場ちゃんねる」で活躍しているのが、BONDのスマートアバター。夏休み親子見学ツアーなど各工場の季節のイベントなどを告知する。

驚き喜び表現

BONDの技術はまず、入力した様々な言葉を自然言語処理技術で意味を持つ単語に区切り、内容を判別する。これと感情に特化したデータベースを組み合わせて類型化し、喜びが70%、驚きが30%などと解析する。

顧客が文章データを入力すれば、驚きや喜びなど様々な感情をアバター

番組作り、アバターで演出

《会社の概要》
 △本社 北九州市小倉北区西港122
 △売上高 約6000万円
 △従業員 7人
 (2014年11月期見通し)

1950年にオマセフセット印刷会社として創業した。双方向印刷を開発、現在各種印刷サービスを手掛ける。2014年、オマセフセット印刷の古川写真印刷事業を昨秋、ベンチャー企業を支援する古川寛氏が設立した。カ「この技術はMOOC(インターネット上の公開オンライン講義)にぴたり」と考えたのが九州大学の村上和彰教授。「講演用のパワーポイントに発言内容の文字データが入っていれば、そのまま使える」からだ。村上氏が副所長を務める九州先端科学技術研究所(ISIT、福岡市)はBONDと提携、学習・教育・研究向け「ラボクラウド」のMOOC事業に活用する。現在ISITでは、9月にMOOC形式で開講する「ビッグデータ利活

用事始め」の講義動画を制作している。先生はスマートアバター。担当者がせりふを見ながらアバターの動きを調整し、クラウドコンピューティングやビッグデータを使いこなす人材を育てるための講義が次々にできあがる。

大学でMOOCの講義を実写で作ろうとするが、まず発言内容を教授が固める。数人の撮影スタッフのほか、スタジオを用意する大学もある。

「人をつなげる双方向コミュニケーションの絆になる」と社名をBONDに変えたが、技術革新の波頭を走るのは創業者精神だという。情報通信分野の技術者を積極採用し、08年にスマートアバターの開発に着手、12年に商品化した。

これで勝負

ネット講義では先生役

コンテンツ開発 BOND



ISITではスマートアバターを使ってMOOCの講義を作る

「この技術はMOOC(インターネット上の公開オンライン講義)にぴたり」と考えたのが九州大学の村上和彰教授。「講演用のパワーポイントに発言内容の文字データが入っていれば、そのまま使える」からだ。村上氏が副所長を務める九州先端科学技術研究所(ISIT、福岡市)はBONDと提携、学習・教育・研究向け「ラボクラウド」のMOOC事業に活用する。現在ISITでは、9月にMOOC形式で開講する「ビッグデータ利活用事始め」の講義動画を制作している。先生はスマートアバター。担当者がせりふを見ながらアバターの動きを調整し、クラウドコンピューティングやビッグデータを使いこなす人材を育てるための講義が次々にできあがる。

内容変更も楽

内容も変えやすい。IT分野は変化が激しい。講義内容を変えるのが、スマートアバターならば極めて楽(村上氏)という。5分程度の講義を1〜2時間で作れるという。「実写に比べて作業量が10分の1になるイメージ」だ。

ISITは自らの講義用だけでなく、大学や企業などからスマートアバターによるMOOCの教材の作成代行サービスも始めた。MOOCだけではなく、スマートアバターは公共施設や交通機関の案内、展示会情報やデジタルサインなど様々なところから引き合いが来ている。古川社長は「個性がエルの『ピョン吉』みたいに、いつもそばにいるアバターが生活を支援したり、意思疎通を解決したりする社会にしたい」と語る。

(三浦義和)